

2012 第1回 校内研究会 講話 倉知先生より



学び合いの授業で大切なこと

<昨年と比較して>

- ① 生徒が参観者に反応しなくなった。慣れもあるうし、授業に集中しなければという意識もあると思うが、そうでない学校では教室に入るときに邪魔をしないようにと気を遣いながら入っていかねばならない。生徒が授業を愉しんでいるように見えるし、表情が柔らかいし生徒が暖かい。
- ② 2つめは授業のプラン(デザイン)が明確になった。2つの課題を設定することをデザインの中書き上げたことで授業が見やすくなった。

今年1月の授業研究の時に話したこと。生徒の目が輝いている。それまでは静かに授業を受けてはいるが、下を向いたり焦点が合わない生徒が見られた。

今の3年生の生徒も、去年の音楽の授業と比べるとずいぶん良くなっている。

4校時の授業を参観したが、すべてのクラスでグループで学習していた。

学び合いの授業で大切なこと

ひとりぼっちを作らない、人間関係を作り上げる。

学び合いの授業で大切なことは、教室の中にひとりぼっちの生徒を作らない。全員を参加させる授業であること。学校に自分の居場所があり、仲間とともに学ぶ機会があるということ。そういう学校にしていかなければならない。ましてや公立中学校である以上はこういったことに責任を持たなければならない。一部の生徒を相手にする授業ではなく、全員に参加させなければならない。こういう授業をすることによって、生徒の中の仲間同士支え合う意識が芽生えてくる。生徒同士の差別感がなくなり、いじめといった感覚が薄らいでいき、仲間が支えてくれるという雰囲気になってくる。

一番大事なことは生徒たちが学力を付けることではあるが、それより先に人間関係を作り上げていくこと。一つのことに対して知恵を出し合い、支え合っていく、こういう経験をすることが学校教育の中で大事なことで、そういう基盤ができてこそ、より高い学力に到達できるようになる。粟津中学校はそのレベルにまで達しつつある。この生徒がさらに高いところに行くにはどうするかが課題。



教師と生徒の関係（縦糸と横糸の関係）

今日の3年生の状態は非常にいい。ただ、これがゴールではない。まず関係性を重視したい。さらに教科の中身。関係性に関して、生徒どうしはやわらいでいい関係。100%とはいかないが、教室の中でひとりぼっちを見つけられない状態になっている。3年前なら簡単に見つけられた。教室の中でどンドン見つけることができた。今日のどの授業を見てもどの生徒がひとりぼっちなんで、なかなかわからない。大事なことは教師と生徒の関係が、縦糸と横糸の関係になっていること。粟中の教師は生徒に関

わる縦の関係はよくできている。そしてこれができる先生だからこそ、生徒同士の横糸をつなぐことができる。縦糸がつかない先生が横糸をつなぐことは無理だと思う。この関係ができているからこそ、和らいだ雰囲気になってくる。三浦先生が「先生に質問してみよう」と言ったときに一番緊張したのは先生たちだった。生徒たちには楽しみが増えた。嫌な先生ばかりなら生徒たちは楽しくない。この先生と生徒の暖かい関係性が維持できて、すごくいいところまで来ている。

生徒との関係性を維持し、より高めるために — グループから全体へ — — 「わからない」をだせるクラス作り —

生徒と教師の関係性を維持しながら、もっと高めて行くには、もう一方で教科の中身をどうしていくか、授業としてどう成立させていくかが大切。

前回の課題でもあったが、グループから全体にどうつないでいくか。まず、全体の時間が短い。グループから全体につないでいくところが教師の力の見せ所である。グループでワイワイ楽しくやっていてそれで終わっていいのか。グループの中で課題について全部理解できればいいのだが、グループの差があるかもしれない。そのわからないことをもう一度全体に返して全体で訊くことができるか。班に答を聞くのではない。グループはあくまでも生徒同士がわからないことを言い合ってみんなの説明を受けてわかっていく、そのための単位である。班でわからないことを、今度は教師が関わって全体の中で拾い上げていく。グループで説明してもらったが、まだわからないことがないか聞かないといけない。このときに「わからない」とクラス全体の中で言えるか。

「わかること」ではなく「わからないこと」を全体で考える

わかることを出させるのではなく、わからないことを全体で考えてみよう。全体に返すことによって、ある生徒のわからないことを全体で受け止めようとなる。そこに進んでいって欲しい。すると、みんなでわからなさや付き合いにくい風になる。わからない生徒がいることを全体が受け入れるようになる。わからない生徒が悪いのではなく、そのわからない生徒にクラスみんなで付き合う。

全体になったときに、グループで一つといったことをやらないで欲しい。グループはあくまでも個人レベルで聞き合うことがしやすい、そういった点では機能している。グループだと知らないことを聞いてもあまり恥ずかしくない。全体でわからないことを聞くというのはかなりハードルが高い。

グループで出してというと、それを隠れ蓑にしてしまう生徒が出てくる。グループの中で誰かがやってくれるから、自分はわかってもらわなくても大丈夫。当たらないようにさえずればいい。

個人個人がわからないことを学んでいく。人が学ぶのではなく、自分が学ぶ。個々の学びに教師が付き合う、みんなが付き合う。そういう認識になると個々が納得できるようになる。

生徒の心を見抜く教師の目

大勢で見ることによって、授業者に見えなかったことを授業者に知らせることができる。これを繰り返すことで、最初は1つか2つのグループしか見えなかったのが3つ4つ5つというようにたくさんのグループのことが感じられるようになってくるのが望ましい。これはそういう意識を持って経験を積み重ねることではか身につかない。あんな表情をしているときにはこんな事を考えているといったような見抜く力、観察力が教師の生命線。いち早く気付くようになればそれに対応することもできる。それが鈍感であると、何が起っていても気付かない。



生徒同士が関わるグループ

A という生徒がみんなの中で支えられているかということを見つけていくこと。30人の中で教師1人が見ていくのはたいへんである。Aのような生徒に教師がつくのではなく、生徒を育てながら生徒同士で支え合えるグループをつくっていく。教えることのすべてに教師が関わるのではなく、生徒同士でやってくれることをたくさんつくっていく。生徒同士が関われるようにする。そのためにグループはすごく有効である。グループで解決できることはグループに任せる。

授業のリズム・興味がわく授業

今日の授業は全体の場面が少ない。授業のリズムとして、グループ→全体→グループの授業パターンを生徒に身につけさせるくらい繰り返す。今日の次の課題は何だろうと楽しみにするようになる。

今日の授業に生徒が意欲的に取り組んでいた。その原因を考えると、1つはゲーム的な要素が多く、2つめに身近な先生を引き込んだ楽しい授業であった。しかし、早くこの段階から脱却して欲しい。

こういう授業に慣れてくると、こういう授業じゃないと楽しくないと感じるようになる。「興味を引く」授業ではなく「興味がわく」授業であってほしい。「楽しさ」を求める授業ではなく、じっくりと考えさせる授業であって欲しい。そういった意味で、例えば入試問題を持ってくるなど、中身(レベル)がもう少し高いものを後半に持ってきて欲しかった。

グループの中で新しいことにチャレンジ

4班 先生に対する質問のとき「枝豆」を探した。先生を困らせるような変な動詞(盗む)を探した。Bが「お金」にしよう。Cが「告白」は？ 辞書が置いてあることにより、新しいことにチャレンジすることができた。国語の「漢和辞典」「国語辞典」社会の「資料集」なども良い材料。

Dが「結婚ってどう言うの？」Eが「marry」Fは「結婚した状態」「経験したこと」「経験ならバツイチになる」と続けた。こういう会話の中で新しいことを学ぶことができた。



大津市立栗津中学校

[住所]
〒520-0833
滋賀県大津市晴嵐1-20-20
[電話]
077-537-0745
[FAX 番号]
077-537-0760

■栗津中学校が目指す学習

—「学び合い」から、理解を深める教室作り—

○生徒が主体的に取り組み、学習する楽しさや喜びを実感できるような授業

○学習内容がしっかりと定着するような、わかる・できる授業を目指して、グループ学習を取り入れる